



氏名：堀江 透

学歴：1970年 千葉大学薬学部薬学研究科修士課程 修了  
1983年 薬学博士（千葉大学）  
職歴：1970年 エーザイ株式会社入社 薬理研究所  
1990年 同社 研究開発本部 探索代謝研究室 室長  
1996年 同社 基礎研究本部 薬物代謝室 室長  
1999年 エーザイ株式会社 退社  
同年 ディ・スリー研究所 設立 代表取締役所長  
2003年 ㈱フェニックスバイオ 取締役キメラマウス事業本部長  
2010年 ㈱Proteomedix Frontiers 代表取締役  
2013年 鳥取県産業振興機構 R6D コーディネーター

趣味：旅行（源泉掛け流し温泉巡り、龍馬の追っかけ、幕末の志士の史跡めぐり）

将棋（つくば将棋サロン開設）、ゴルフ、

人生のモットー：面白きなき世をおもしろく、住みなすものは心なりけり（高杉 晋作の辞世の句）

座右の銘：この道より我生かすべき道なし、高い志を持って、この道をゆく

#### 新創薬塾の講義内容

1. 開発における意思決定要因を探る（主として薬部動態・薬物代謝の要因）
2. 探索段階での創薬代謝研究の進め方（医薬候補化合物選択）
3. 薬物代謝酵素の誘導と有効性、安全性、相互作用
4. 薬物代謝酵素の阻害と薬物相互作用（メタボリックスイッチングを含む）
5. ヒト肝細胞を移植したキメラマウスの創薬代謝への応用
6. 研究者の人生設計を DISC 理論から考える（自己診断評価）

医薬品開発において、探索段階での創薬代謝・早期薬物動態の検討は医薬候補化合物の選択にとって重要である。なぜなら、臨床を予測して医薬候補化合物を選択しなければその後、臨床試験で開発を中止せざるを得ない事態に陥るからである。開発テーマの意思決定に必要な情報は過去に失敗した事例を知るとともに、その失敗を回避する *in vitro* 試験系（創薬代謝スクリーニング）の構築が重要である。